

草地に石灰質資材を！

「草地に炭酸カルシウム（以下、炭カル）をまいていきますか？」

図1は、標茶町A地区の草地土壌の石灰量を診断したものです。約6割のほ場で、基準値よりも石灰が不足していることがわかります。

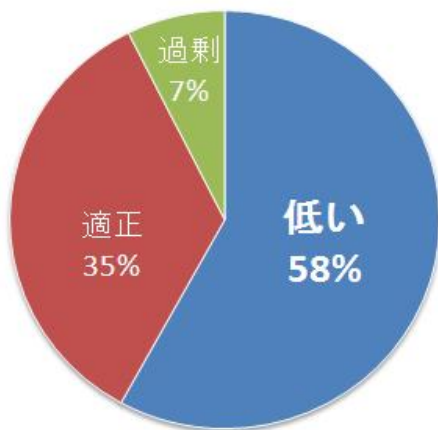


図1 標茶町A地区の石灰量の分布 (81 H24年)

1. 石灰質資材の必要性

次に上げる主に3つの要因により、草地の土壌は酸性化しているため、定期的に石灰質資材を施用し続ける必要があります。

①降雨

雨水は、土壌中の石灰・苦土などを溶かして流亡させます。

②施肥

化成肥料を施要すると、作物に

あまり吸収されない硫酸や塩素が土壌に残り、これが石灰や苦土と結びついて流亡します。

③作物（牧草）による収奪

表1のように牧草に吸収された分は、収穫により草地から持ち出され減少します。

ほ場の石灰は、毎年、炭カル換算で10アル当たり40～50kg程度失われます。

表1 牧草の石灰吸収量

作物名	石灰吸収量(kg/10a)
イネ科牧草	4.9
マメ科牧草	13.1

2. 土壌の酸性化は、草地を悪化させる

土壌の酸性化（土壌pHが低い）によって、

①有害成分の溶出による障害

②リン酸の肥効低下

③石灰や苦土などの欠乏

④微生物活性の低下

がもたらされ、牧草の生育に悪影響を与えます。それは、牧草の品質や収量の低下を招くだけでなく、雑草の侵入や繁茂を助長し、草地を荒廃させてしまいます。したがって、炭カル換算で毎年10

アル当たり40～50kg程度の石灰を、ほ場に補給する必要があります（図2）。

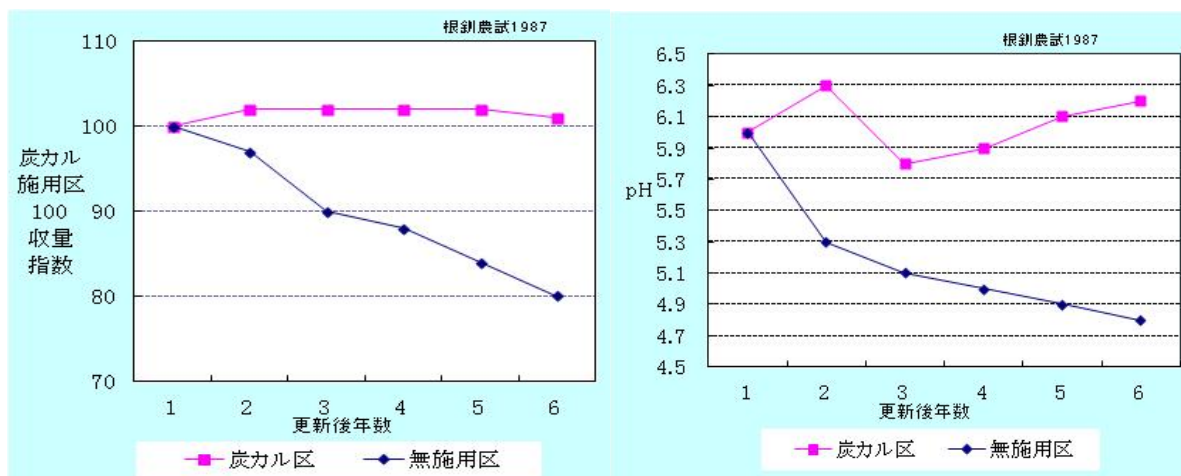


図2 炭カル（40kg/10a）を毎年施用した場合の収量の変化（左）とpHの変化（右）

3. 石灰質資材の選定

石灰質資材にも、炭酸カルシウムや消石灰など種類があります。土壌の苦土分が少ない場合は、苦土炭カルを選択し、苦土分の問題がなければ、炭カルや貝化石などを選択します。現場では、粉立ちのない防散炭カルや防散苦土炭カルが利用されています。

また、ライムケーキ（ビートの副産物）の利用も可能です。

来年の牧草のために、この秋に是非、石灰質資材の施用をご検討ください。

「いつ、やるか（まくな）？」

「今（この秋）、どしよう！」



（平成二十五年八月作成）